

季節性に起こる皮膚疾患

東京女子医科大学女性生涯健康センター教授

檜垣 祐子

(聞き手 池田志孝)

53歳女性。2007年春頃より頭頸部に癢痒感を持った皮膚炎症状が出現し、ステロイド軟膏塗布にて軽快していたが、2008年春より上眼瞼の癢痒感を持つ皮膚炎が出現し、徐々に同部の皮膚が切れてきた。春を過ぎるとやや軽快する。2010年3月に円形脱毛症も出現し、皮膚科受診し外用薬としてフロジン・デルモベート、プレドニン眼軟膏、ロコイド軟膏、内服としてユベラン・セファランチン、クラリチンを服用したが、10日目に口周囲と腹壁に発疹を生じセファランチンを中止した。腹部は軽快したが、口周囲は悪化（発赤→色素沈着）し大阪大学受診。腹部・口周囲の生検施行し「毛包周囲と真皮上層に強いリンパ球中心の細胞浸潤が見られ、メラニン色素の滴落が多数あり、基底膜の障害がうかがえる」とのことでした。採血の異常値としてはHSV（CF法）64倍、血清補体値55.3U/mlです。その後も、春先になると口周囲と口唇は発疹と色素沈着を繰り返し拡大している。確定診断への方法、少なくとも色素沈着の拡大を止める方法はないのでしょうか。ご教示お願いいたします。

<大阪府開業医>

池田 質問のような難しい症例なのですけれども、どのような状態が考えられますでしょうか。

檜垣 次々、いろいろな症状が出て、また繰り返しておられるということで、難しいですけれども、2008年の春から上眼瞼、まぶたのかゆみを持つ皮膚炎が起きたということですので、もしかするとこの方にはスギ花粉症がおり

で、その花粉症に伴って目の周りの皮膚炎を起こした、いわゆるスギ花粉皮膚炎というものがありますけれども、それが始まりだったのかもしれないですね。そうしますと、程度が軽いと、季節が変わりますとよくなるという傾向があります。

池田 年齢的に、53歳・女性といたしますと、どのようなことが考えられま

すか。

檜垣 世代的には更年期に当たりまして、更年期のころというのは、ご存じのように、女性ホルモンが減少してきますので、いろいろな身体症状を出してることがあります。特に、自律神経の失調症状が出やすいので、それに伴って、いわゆる冷えのぼせとかホットフラッシュというような症状、特にお顔はほてり感のような症状が出やすいです。そういったときには、お顔の皮膚のトラブルがわりと起きやすいというのを日常経験しています。特に、かゆみが出たりとか、赤みが出たりというケースが多く見られます。

池田 質問ですと、その後も春先になると発疹ができて、色素沈着を繰り返して拡大しているということなのですが、そういった皮膚の花粉症とか更年期とホットフラッシュ、そういったことと色素沈着というのは関係があるのでしょうか。

檜垣 おそらく皮膚の炎症を繰り返しているために生じている炎症後の色素沈着ではないかと考えます。ですので、その場合の対策としては、炎症をなるべく短期間で十分な治療を行っておさめるということが、色素沈着を増やさないという意味で重要かと思えます。生じてしまった色素沈着というのは、ゆっくりですけれども、徐々に代謝されて消退していきますので、まずは皮膚炎のコントロールを目指すとい

うことが治療上は大切かなと考えます。

池田 質問には、主に春を過ぎると軽快してくる。「やや」という表現がありますけれども、こういった短期的な皮膚炎でこのような色素沈着が生じて、それが拡大するということはあるのでしょうか。

檜垣 炎症の程度にもよるかと思えます。かゆみがあって、非常に強くこすってしまったりとか、かいてしまったりということで皮膚炎を悪化させてしまうと、色素沈着は残っていくと思います。また、この方は春を過ぎるとやや軽快するということですが、症状が強いと、季節がめぐっても、花粉と関係ない時期にも皮膚炎が持続してしまうこともあります。春を過ぎてやや軽快しても、それ以降も軽度の発疹が長く続くことで色素沈着を招いているかもしれないですね。

池田 治療として、プレドニン眼軟膏、ロコイド軟膏等を使っておられますけれども、こういったものによる影響、副作用のようなものは考えられますでしょうか。

檜垣 この方は皮膚の生検もされておられて、そのときに口の周りの発疹が悪化していたということなのですが、毛包周囲の炎症ということで、おそらく毛穴を中心とした炎症が起きていたと思われます。こういった症状は、口囲皮膚炎とか酒皸様皮膚炎と言うこともありますけれども、ステロイ

ド外用薬の副作用として起きてくることもあります。プレドニン眼軟膏、ロコイド軟膏ともに弱いステロイドの外用薬ですが、やはりケースによっては副作用が出ることも考えられます。

池田 確定診断の方法、すでに大阪大学で皮膚生検を受けられているのですけれども、この後、確定診断の方法というのはどのような方法で、どのようなスケジュールで行われていくのでしょうか。

檜垣 まずは花粉症のチェックをされたほうがいいかなと思います。血液検査で特異IgE抗体を検査することができますので、スギ花粉をはじめとして、ヒノキ、イネ科とかバタクサなどの雑草の花粉のチェックを一度されたほうがよからうと思います。

それから、もしこの方が更年期の症状、自律神経症状を持っておられるようでしたら、それに対する対策も必要かもしれません。女性ホルモンの血液中の量を測定するなどして、今どういう状態にあるのかということを確認しておくとうよろしいかと思います。

池田 そのほか、女性ですので、化粧品も含めた慢性の何か接触性の炎症とか、そういったものは考えられますでしょうか。

檜垣 そうですね。それも忘れてはならないと思います。特に、皮膚の乾燥などが気になって、保湿をし過ぎていたりとか、あと知らず知らずにかぶ

れを起こしていることもありますので、使用されている化粧品のチェックも必要かと思います。

池田 化粧品の主な検査法ですけれども、どのようなものでしょうか。

檜垣 パッチテストという試験があります。これは原因と思われる物質を背中などに張りつけて、実際に皮膚炎が起きるかどうかを確認するテストで、なかなか技術的にも判定の面でも、皮膚科専門医でないと難しいところがあるかもしれません。

私が日常診療で時々患者さんにご説明しているやり方は、上腕の内側、腕の内側のところに、使用しておられる化粧品の5日間ぐらい塗っていただいて、そこに皮膚炎が実際に起きるかどうかを確認する。オープンパッチテストの方法に準じて調べていくことがあります。もし何か皮膚炎が起きた場合は、その化粧品は使用しないようにしていただくというふうな、現実的な対策に結びつけています。

池田 なかなかパッチテストは難しい。単純塗布を繰り返して行うことによって再現できるかということですね。

檜垣 そうですね。

池田 あと、女性に限らないのでしょうか。色素沈着が問題になっていて、拡大を止める方法はありますかということですが、一般的な慢性の皮膚炎による色素沈着ということを考えますと、どのような対処法

があるのでしょうか。

檜垣 まずは、原因となっている皮膚炎、色素沈着のもとになっている状態をよく治療するというのが第一だと思うのです。それによって色素沈着を増やすことがなければ、ゆっくりですけれども、徐々に消えていくことが多いと思います。そのほか、ビタミンCを内服していただくとか、いわゆる美白剤のような化粧品を使っていたかという方法もありますけれども、場合によっては美白剤で接触皮膚炎、かぶれを起こすということもありうるので、使うときには慎重に使っていただくとうろしいと思います。

池田 場合によっては、そういった化粧品も含めて、あとは色素沈着に外用する薬も単純塗布で安全性を確かめておいて、それから使用するか、そういったことが必要だと思われませんか。

檜垣 そうですね。そうすると丁寧だと思います。

池田 こういった方というのは、私の印象ですが、いわゆる乾燥肌という

ことがあって、いろいろなアレルゲンが皮膚を通して入ってくるようなことがあると思うのですが、そういったことも春先のいろいろな花粉を含めたアレルギーのもとにさらされるという原因になっているのでしょうか。

檜垣 ちょうど春ですので、冬の乾燥した時期を経てということになりますので、肌は乾燥した状態になっていると思うのです。ですから、冬の間に適切な保湿をしておくということも大切ですし、お顔を洗うときにこすり過ぎたりしないとか、洗顔料を控えめにするか、そういったケアも日常的に大切かと思えます。

池田 よくわかりました。確定診断はアレルギーのテストをIgE RAST等でやって、皮膚につけているものはパッチテストとか単純塗布テストをやって、それで安全なのを確かめたうえで治療も行うし、確定診断にも持つていくということによろしいのでしょうか。

檜垣 はい、よろしいと思います。

池田 ありがとうございます。